事業番号 2023 - デジ - 22 - 0001 - 52

	1		人子口上		学术田 勺	2020		32					
			令和5年	度行政事業レビ		(デジタ						
事業名	Slack				担当部局庁	戦略・組織グループ		作成責任者					
事業開始年度	수	和5年度	事業 能 (予定):	年度 終了予定	担当課室	Slack	7]	〈島壮太					
<u>会計区分</u>	一般会計												
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-				関係する 計画、通知等	デジタル原則の旗振り役 め、新しい時代・社会に ジタル技術を徹底活用	デジタル臨時行政調査会における総理指示(抄)第2回デジタル臨時行政調査会 デジタル原則の旗振り役の霞が関こそ、デジタルトランスフォーメーションを果断に め、新しい時代・社会に見合った姿に率先して変革していきます。具体的には、(3) ジタル技術を徹底活用できる、働きやすく、やりがいを持てる魅力ある職場環境 養備に取り組んでいきます。(1)、(2)は省略						
政策	情報通信	技術等の適正	効率化に関する	る施策の推進									
施策	情報シス	テムの整備			主要経費		その他の事項経	費					
政策体系·評価書URL	https://w	ww.digital.go.jp/	policies/assess	sment/									
事業の目的 (5行程度以内)	の上から伝	言ゲームのよう	に情報が転送され	れる中で、伝え方や職員の	反応がフィルタされてしま		いう課題を解決し、意思決	える情報伝達における組織 定のスピードアップや情報共					
現状・課題 (5行程度以内)	占める民間の勤務日数の日勤務していてある。	引出身者が役所が 数の民間非常勤! いなくても、情報に 。オープンに過去	いらの出向者と混 職員も多くいる。さ ニキャッチアップで 情報がしっかり活	ざり合い、プロジェクトベー らには、多様なプロジェク きる環境が必要である。そ	・スで仕事をしているほか、 トが存在しており、プロジェ ・こで組織として重要なのか また複数のプロジェクトがえ	テレワークも多く会議は基 ^ス クト同士の相互の連携も必 、、コミュニケーションが「オ-	本的にオンラインかハイブ 要であり、これらの事情か −プンであること」、「属人イ	:も異なっている。また、4割を リッド形式を取り、週1〜週5 ・6、オフィスにいなくても、そ とを排除すること」「業務効率 必要であり、これを実現する					
亭業概要 (5行程度以内)						ケーションポリシーに基づた 常的な運用管理業務であ		事業である。					
事業概要URL	_												
<u>実施方法</u>	委託·請負	į											
補助率等	_												
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求					
		当初予	· 笪 (A)	-	_	-	_	_					
		補正予		_	_	_	_						
	-		<u> </u>				_						
	-						_						
	-						_						
	予算の						_						
予算額・	状況 📗						_						
執行額 (単位:百万円)	-	前年度から	. 編載L (C)		_	_	_	_					
(インプット)	-	翌年度へ		_	_	_	_						
	-	予備費		_	_	_	_						
	-	計		_	_	_	_						
		=(A)+(B)+(-	-	-	_	-					
		執行額(G)	-	-	-							
		執行率(% =(G)/(F))	-	-	-							
	当初予算	算+補正予算に の割合(% =(G)/{(A)+(I)	-	-	-							
		歳出予算項		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主	・ な増減理由(・要望額・予	5備費)					
令和5·6年度 予算内訳													
ア界内駅 (単位:百万円)							-						
		計(A)		-	-								

活動内容①(アクティピティ)		デジタル庁職員を対象に、主なコミュニケーションツールとしてSlackを利用し、活用促進を実施する。												
	$\overline{\downarrow}$													
£#4 P :	ロッパ子 中央	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込				
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		庁内における主なコミュニケーション	・全職員の1ヶ月における	活動実績	日	-	-	-	18	-				
		ツールとしてSlackの利用を促進する	Slack利用日数	当初見込み	日	-	-	-	15	20				
1	成果目標①-1の 設定理由 (アウトブット からのつながり)	Slackのアナリティクス機能によりデータ 全職員が定常的にSlackを利用していく。		の利用日数	如において	7は0日~30日:	までと、利用頻	度に大きな差	が生じているカ	iz b				
		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標	年度 6 年』				
	標及び成果実績 ①-1		=	成果実績	日	-	-	-		-				
(短其	切アウトカム)	Slackの1ヶ月あたりの利用日数を平均 20日程度とする	・全職員の1ヶ月における Slack利用日数	目標値	日	-	-	-	2	.0				
				達成度	%	-	-	-		_				
充計・ 定性的	として用いた データ名(出典) かなアウトカムに でる成果実績	Slackのアナリティクス機能によりデータ?	を取得											
l	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	Slackのアナリティクス機能によりデータ:数メンバーとのコミュニケーションという。 チームやプロジェクト内、また組織においる。	よりも、1対1でのやりとりが多し	状況である	0				目率をあげてし	く必要があ				
成果目標及び成果実績			ウ号的な成用も煙		半位	○100年度	今€112年度	会和4年度	目標	年度				
果目		成果目標	定量的な成果指標	成用宝结	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度		6 年月				
	課及び成果実績 ①-2 切アウトカム)	全チャンネルにおけるコミュニケーション	定量的な成果指標 プライベート・オープン両方の チャンネルにおけるコミュニ	成果実績目標値	単位 % %	令和2年度 - -	令和3年度 - -	令和4年度		6 年月				
	①-2		プライベート・オープン両方の		%	-	-	令和4年度 -	. 7	6 年月				
(中) 果実拠 統計・ 定性的	①-2 朝アウトカム) 臓及び目標値の として用いた	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%)	プライベート・オープン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率	目標値	%	-	-		. 7	6 年月 - 0				
(中) 果実拠 統計・	①-2 切アウトカム) (横及び目標値の として用いた データ名(出典) りなアウトカムに	全チャンネルにおけるコミュニケーション利用率を70%とする(DM利用率30%)	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー	達成度	96 96 96			-	7	6 年				
(中事) 果実 根拠・・・・ を定性関す	①-2 切アウトカム) 検及び目標値の として用いた データ名(出典) かなアウトカムに る成果実績 成果目標①-3の 般定理由 (長切アウトカム へのつながり)	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータ デジタル庁全職員がSlackを平均的に利 アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー	達成度	96 96 96			-	・ 7 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	6 年月 - - - -				
(中事) 果実物 表記 中	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として用いたデータ名(出典) ウなアウトカムに る成果実績 成果目標⑪-3の 散定理由 (長期アウトカム へのつながり)	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータを デジタル庁全職員がSlackを平均的に利 アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある	目標値 達成度	% % % %	- - - - -	- - - 加えて、更に	組織文化の醸	7	6 年月 - - 0 - - - 終年度				
(中華) 果根計: E 関	①-2 切アウトカム) 検及び目標値の として用いたデータ名(出典) かなアウトカムに る成果 実績 成果目標型-3の 般第フウトカム へのつながり)	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータ デジタル庁全職員がSlackを平均的に利 アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある	目標値 達成度	% % % % 単位 %	- - - - 実施することに	- - - 加えて、更に 令和3年度	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	・ 7 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	6 年) - 00 - - - 終年度 6 年				
(中學與一個)	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として用いたデータ名(出典) ウなアウトカムに る成果実績 成果目標⑪-3の 散定理由 (長期アウトカム へのつながり)	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータで デジタル庁全職員がSlackを平均的に利アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するア	目標値 達成度	% % % % 報伝達を 単位 %	- - - - - - 令和2年度	- - - 加えて、更に 令和3年度	- 組織文化の醸 令和4年度 89	ボヘと繋げてU 目標最	6 年) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				
(果根計 · 的 す) 果 (果根計 · 的 す) 果 (果根計 · 的 す) ま / ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として用いた データやトカムに でる成果実績 成果目標理由 (長期でからながり) 様及び成果実 (長期であるがり) 様及び成果実績 ①-3の (長期であるがり)	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータ: デジタル庁全職員がSlackを平均的に利アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するアクティブユーザ数の比率	目標値 達成度	% % % % 単位 %	テ施することに 令和2年度	- - - - かえて、更に 令和3年度 - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年月 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				
(中中) 果板計性関 果板計性可 果板計性可 果板計性可 果板計性 果板計性 果板計性 果板計性 果板計性 果板計性 上表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として知いた データウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでは 「ステーターの	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータ デジタル庁全職員がSlackを平均的に利 アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するアクティブユーザ数の比率	目標値 達成度 ・ションや情 成果実績 目標値 達成度	% % % % 単位 % %	- - -	- - - - - 令和3年度 - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年月 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				
(果根計性関 ——) 是 展 果根計性	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として知いた データウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでは 「ステーターの	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータ デジタル庁全職員がSlackを平均的に利 アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するア クティブユーザ数の比率	目標値 達成度 ・ションや情 成果実績 目標値 達成度	% % % % 単位 % %	- - -	- - - - - 令和3年度 - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年月 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				
(果根計性関 ——) 早、果根計性関 果拠	①-2 閉アウトカム) 横及び目標値の として用いた データ名(出典) かなアウトカムに 一名のでは、	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータに デジタル庁全職員がSlackを平均的に利アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。 Slackのアナリティクス機能によりデータに	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するア クティブユーザ数の比率	目標値 達成度 ・ションや情 成果実績 目標値 達成度	% % % % 単位 % %	- - -	- - - - - 令和3年度 - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年) - - - - - - - 終年度 6 年) -				
(中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	①-2 切アウトカム) 横及び目標値の として知いた データウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 一タウトカムに 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでながり) 「ステーターのでは 「ステーターの	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータに デジタル庁全職員がSlackを平均的に利アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。 Slackのアナリティクス機能によりデータに	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニ ケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー ていく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するア クティブユーザ数の比率	日標値達成度	% % % % 単位 % %	- - - - - - - - - - -	- - - - - - - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年月 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				
(中東根計性関	①-2 切アウトカム) 横及なて用いた。 「ないのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	全チャンネルにおけるコミュニケーション 利用率を70%とする(DM利用率30%) Slackのアナリティクス機能によりデータに デジタル庁全職員がSlackを平均的に利アクティブユーザー数の比率を100%とし 成果目標 Slackのアクティブユーザ数の比率 100%を目指す。 Slackのアナリティクス機能によりデータに	プライベート・オーブン両方の チャンネルにおけるコミュニケーション利用率 を取得 用し、業務におけるコミュニケー でしく必要がある 定量的な成果指標 デジタル庁職員数に対するアクティブユーザ数の比率	日標値達成度	% % % % 単位 % %	- - - - - - - - - - -	- - - - - - - -	- 組織文化の醸 令和4年度 89 70	ボヘと繋げてU 目標最	6 年月 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -				

事業に関連する	名称	-												
KPIが定められ ている閣議決定	URL	-												
*	該当箇所	-												
		 事業所管部局による点検・改善												
			目標年度における効果測定に関する評価(令和7年度実施)											
		・アクティビティ①の短期アウトカムである全職員の1ヶ月におけるSlack利用日数について は、令和5年6/30時点で定常的に毎日利用している職員から1度も利用していない職員ま												
点検結男	Ŗ.	で、利用日数に大きな差が生じている。平均的に見ると利用日数18日と言うことで当初の設定値である15日を達成できているが、利用状況に差が出る事でコミュニケーションコストが	_											
		高くなってしまう懸念があるため、全職員が定常的にSlackを利用していく必要がある。												
改善の 方向性		Slack満足度調査を実施して利用における課題点の抽出をすることと、特に1度も利用していない職員に対しては個別に意見や要望をヒアリングし、全職員がより良く利用できる環境整備に努め、活用を促進していく。												
		 外部有識者の所見												
点検対象外														
		行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及	なび所見											
現状通り	J	事業の有効性・効率性・成果について、適切かつ的確に検証し、効率的執行に努めるべき。												
		所見を踏まえた改善点/概算要求における反映も	犬況											
現状通り)	引き続き、事業の有効性・効率性・成果について適切かつ的確に検証し、効率的執行に努め	০৯.											
		公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)にお	ける取りまとめ											
		上記への対応状況												
		-												
過去に受けた推 と対応状														
		その他の指摘事項												
		-												
		La - White												
		上記への対応状況												
		-												
		備考												
		関連する過去のレビューシートの事業番号												
 平成23年度	Π	ME, VELOVIE - VIVENEY												
平成24年度														
平成25年度														
平成26年度														
平成27年度														
平成28年度														
平成29年度														
平成30年度 ———— 令和元年度														
令和2年度	-													
令和3年度			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,											
		<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>												

令和4年度																
							_				_					
								デシ	ン タル	レ庁						
		デジタル庁														
									•	7						
									•							
								民間	事業	会社						
							<u> </u>									
資金の流	h															
資金の流 れ (資金の受け取 何を行っている いて補足する (単位:百万	り先がかにつ															
いて補足する (単位:百万	る) 円)															
		費目・使	途欄につ	いてさらに翫	載が必	要な場	合はチェッ	クの上【別組	氏2]に	記載			Ŧ	ニック		

支出先上位10者リスト

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載	エック		
--	-----	--	--